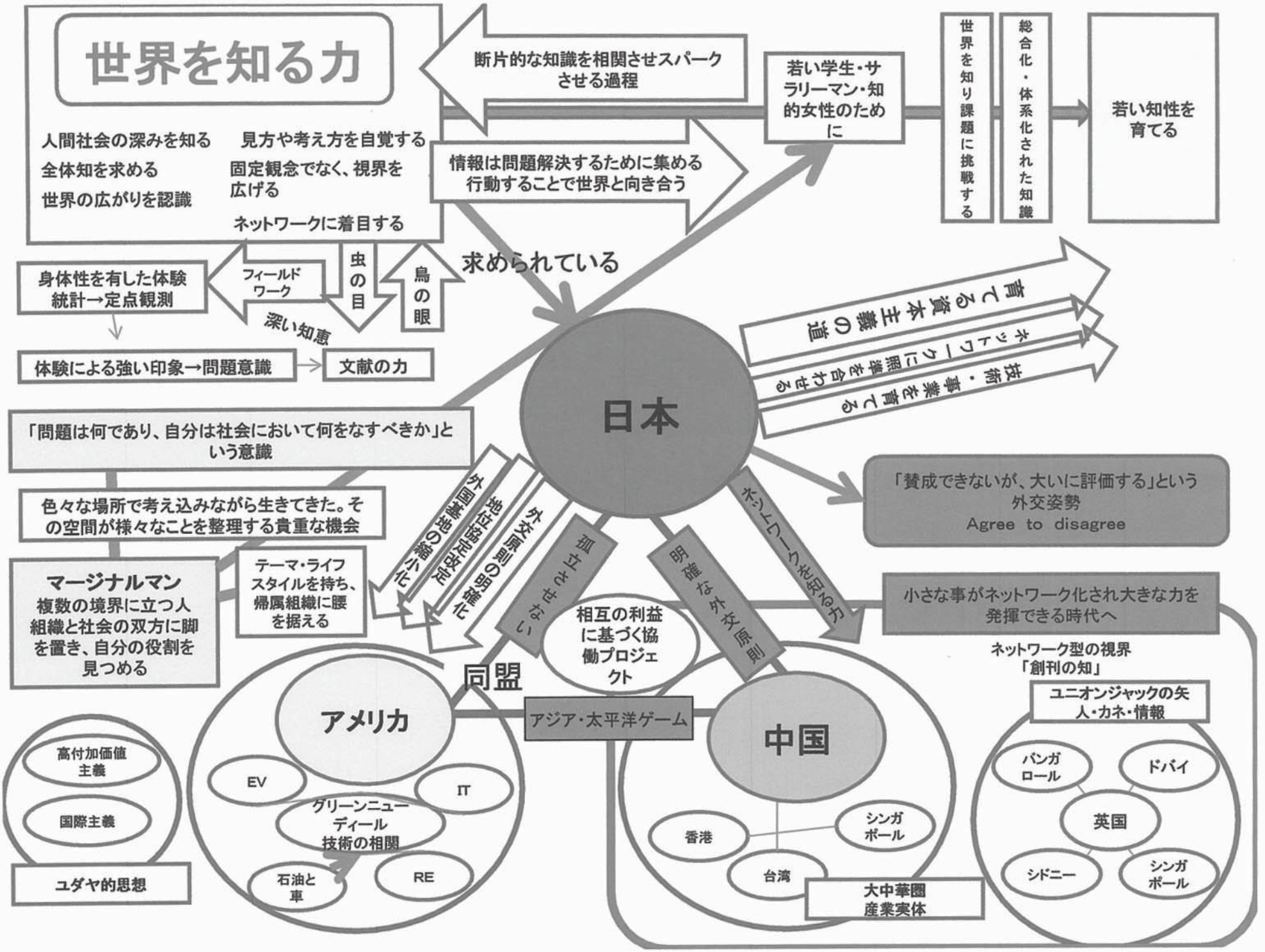
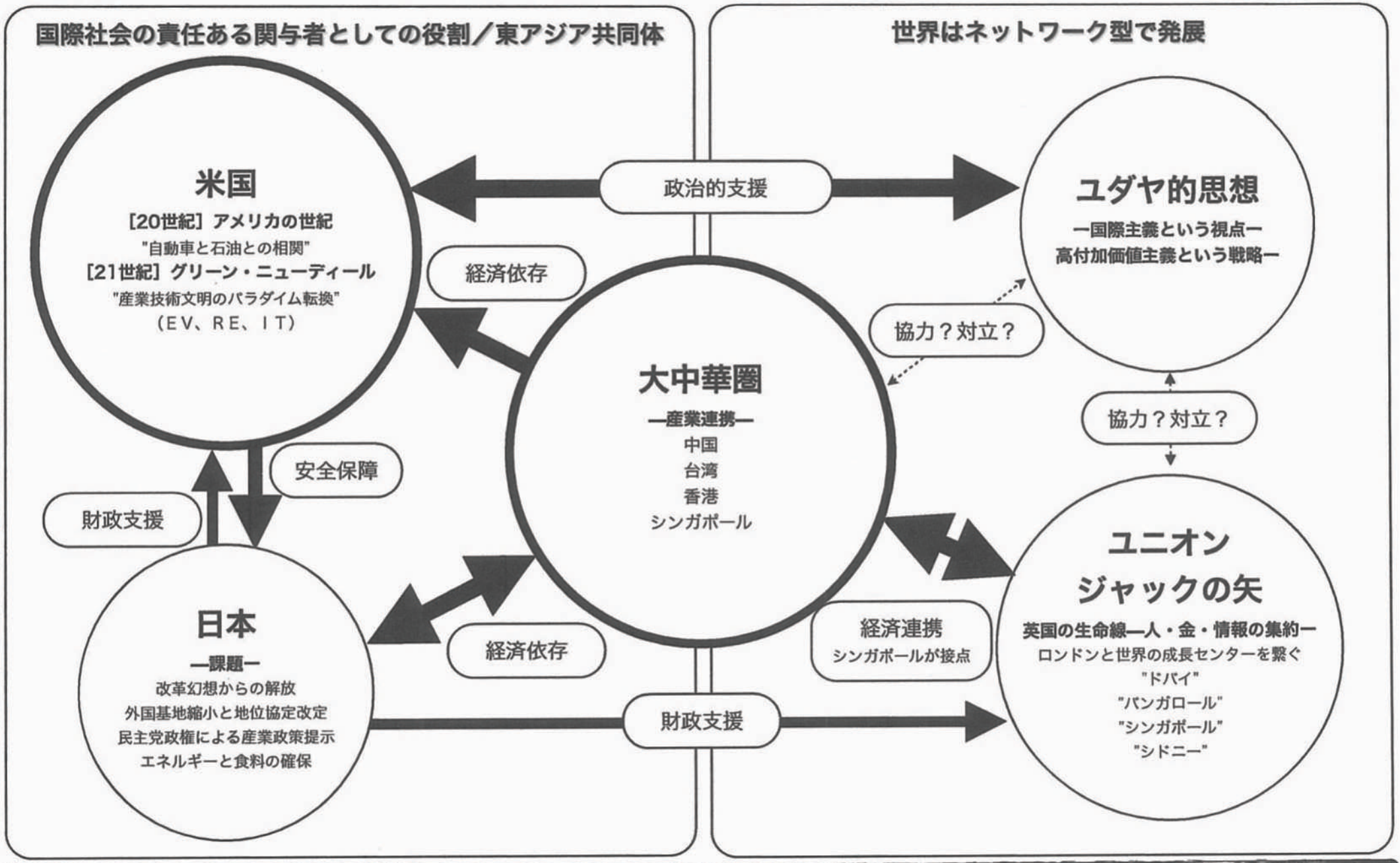
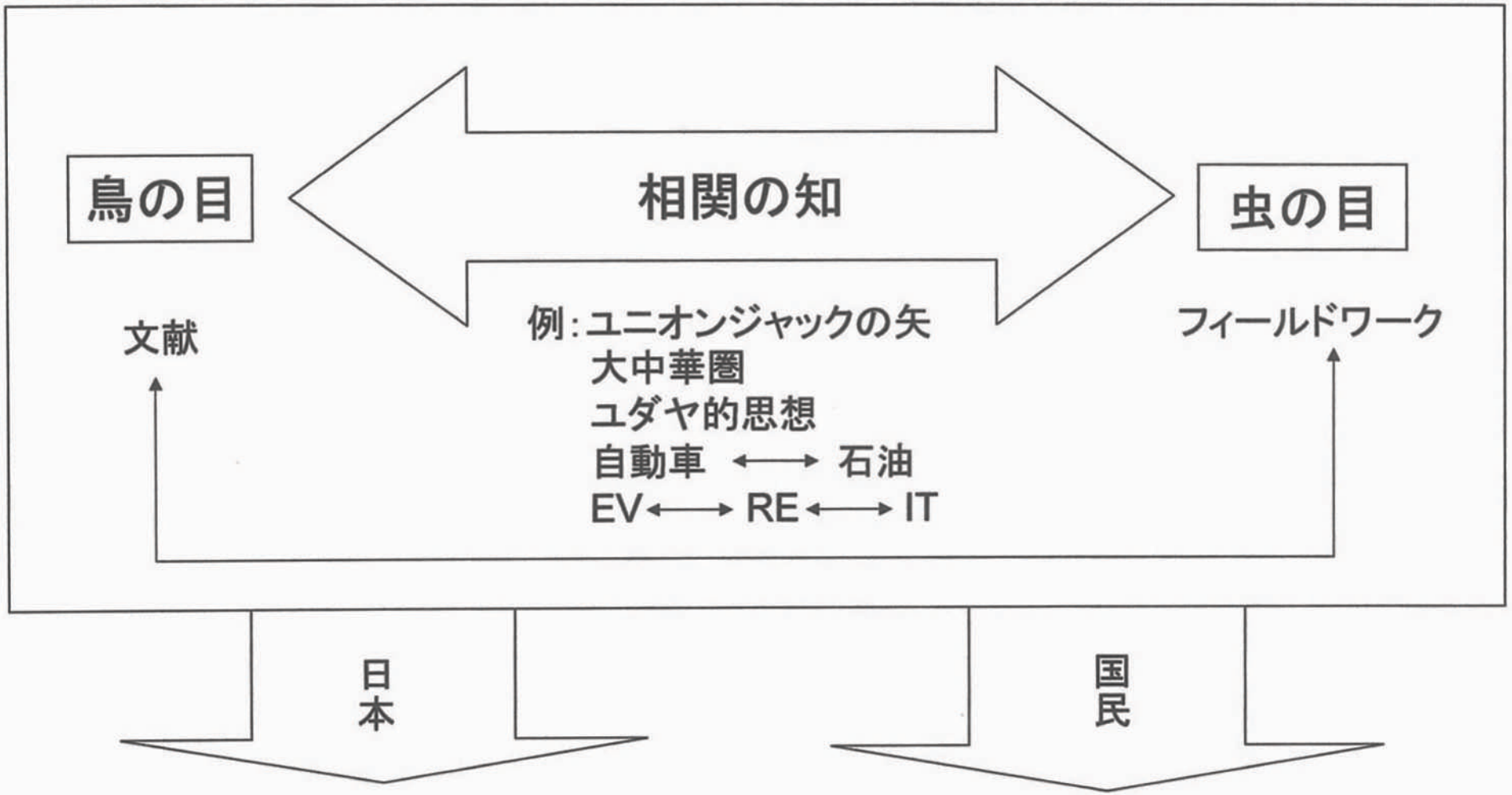

世界を知る力
人間社会の深みを知る
全体知を求める
世界の広がりを認識
見方や考え方を自覚する
固定観念でなく、視界を広げる
ネットワークに着目する
断片的な知識を相関させスパークさせる過程
情報は問題解決するために集める
行動することで世界と向き合う
若い学生・サラリーマン・知的女性のために
世界を知り課題に挑戦する
総合化・体系化された知識
若い知性を育てる
求められている
身体性を有した体験
統計→定点観測
フィールドワーク
虫の目
鳥の眼
深い知恵
体験による強い印象→問題意識
文献の力
「問題は何であり、自分は社会において何をなすべきか」という意識
色々な場所で考え込みながら生きてきた。その空間が様々なことを整理する貴重な機会
マージナルマン
複数の境界に立つ人組織と社会の双方に脚を置き、自分の役割を見つめる
テーマ・ライフスタイルを持ち、帰属組織に腰を据える
日本
育てる資本の蓄積
ネットワークに関係を含ませる
技術・事業を育てる
「賛成できないが、大いに評価する」という外交姿勢
Agree to disagree
外交関係の緊密さ
外交関係の安定
外交関係の緊密さ
孤立はない
相互の利益に基づく協働プロジェクト
明確な外交原則
ネットワークを安全な力
小さな事がネットワーク化され大きな力を発揮できる時代へ
同盟
アジア・太平洋ゲーム
アメリカ
EV
IT
グリーンニューディール技術の相関
RE
石油と車
高付加価値主義
国際主義
ユダヤ的思想
中国
香港
シンガポール
台湾
大中華圏産業実体
ネットワーク型の視界
「創刊の知」
ユニオンジャックの矢
人・カネ・情報
バンガロール
ドバイ
英国
シドニー
シンガポール

”全体知が問題の本質的解決に向かう”—鳥の目と虫の目—



”問題を解決するために知性を育てる”—①沈思黙考と行動、②マージナルマン（境界人）；自らのテーマ、ライフスタイル＋帰属組織—

世界を知る＝ネットワーク型視界



「育てる資本主義」の確立　「マージナルマン（境界人）」

「世界を知る力」とは

多摩大学

[前提] 人間は所詮、時代の子であり環境の子である。

‖

認識できる世界は極めて限定的

‖

固定観念に囚われやすいという宿命

だからこそ、時代や現実の制約を超えて

「世界を知る力」 が求められている！

[例] 戦後60年、アメリカを通じてしか世界を見なくなった日本人

- 日露関係は日米関係より歴史的に深く長い
- 中国を源泉とする思想の継承2500年　vs　戦後アメリカの影響60年
- アジア・ユーラシアとの歴史連携の深さ

→ 歴史時間蓄積を忘却

→ アメリカ中心の発想にとらわれた60年間

太平洋側:「表」
日本海側:「裏」

[どのようにして獲得？]

[打破するには？]

「世界を知る力」獲得の鍵　①･･･時空を超えた視界で見る

過去から現在へと連なる筋道の検証

鳥の目と虫の目を併せ持つ

↓

全体知の獲得

「世界を知る力」とは

多摩大学

「世界を知る力」獲得の鍵　②・・・ネットワーク型の視界をもつ　＝　「相関の知」を働かせる

地理的・経済的相関

- 「バーチャル国家」＝「頭脳国家」
- 「大中華圏の研究開発センター」
- 中国の成長力をASEANに取り込む基点
- インド、豪州の成長力をASEANにつなぐ基点
- ASEANの人の流れを応酬・中東・豪州へつなぐ基点

ロンドン → ドバイ → バンガロール → シンガポール → シドニー

中国　香港　台湾

大中華圏

- 中華民族の連携による産業的実体
- 日本の貿易総額の30%
- 中国の繁栄基盤

ユニオンジャックの矢

共通インフラ1. 英語
2. 文化遺産（イギリス連邦加盟国）
3. 行政・教育・司法等の法的システム・制度設計

ユダヤネットワーク

「ユダヤ思想」
- 国際主義
- 高付加価値主義

技術の相関

オバマ大統領の「グリーンニューディール政策」

成功のカギ　＝技術の相関・相乗

- EV（電気自動車）
- IT（情報技術）
- RE（再生エネルギー）

「世界潮流を映す日本の戦後」

多摩大学

戦後の日本

55年体制

社会主義の消滅

世界の潮流

冷戦後(1990年代)＝IT革命×グローバリゼーション

＝「アメリカ資本主義の世界化」

アメリカ一極支配の世界観

アメリカへの過剰期待

ブッシュ政権下、
日本の思考停止状態

＝

世界を見つめる視座
の喪失

「アメリカ一極支配」的万能感の消失

＝

市場主義・競争主義を第一義とする政治の否定

イラク・サブプライム

世界の多極化

ネットワークを形成できる国や
地域だけが力を発揮できる

重層的に「世界を知る力」が
求められる

民主党政権誕生

課題

・「改革」幻想からの脱却

・「新・自由主義」の先の資本主義の在り方の呈示

・冷戦後世界認識からの完全な脱却

・対米外交原則の明確化
・対中国外交原則の確立
・「東アジア共同体」の実現(相互不信→段階的信頼関係の構築

グローバリゼーション

＝

地球上の国家、市域、民族全員参加

「分散型ネットワーク」への社会のパラダイム転換が
未来の成否を決する

空虚なマネーゲーム的熱狂から距離をとり

技術・事業を「育てる」資本主義」の道へ

日本の歩むべき道

「世界を知る力」

多摩大学

「世界を知る力」の獲得法

「鳥の眼」と「虫の眼」の両方が必要

獲得する方法

文献 ⇔ フィールドワーク

書を捨てず町に出よう！

[agree to disagree]の姿勢を身につける

「賛成はできなくても相手の主張の論点は理解

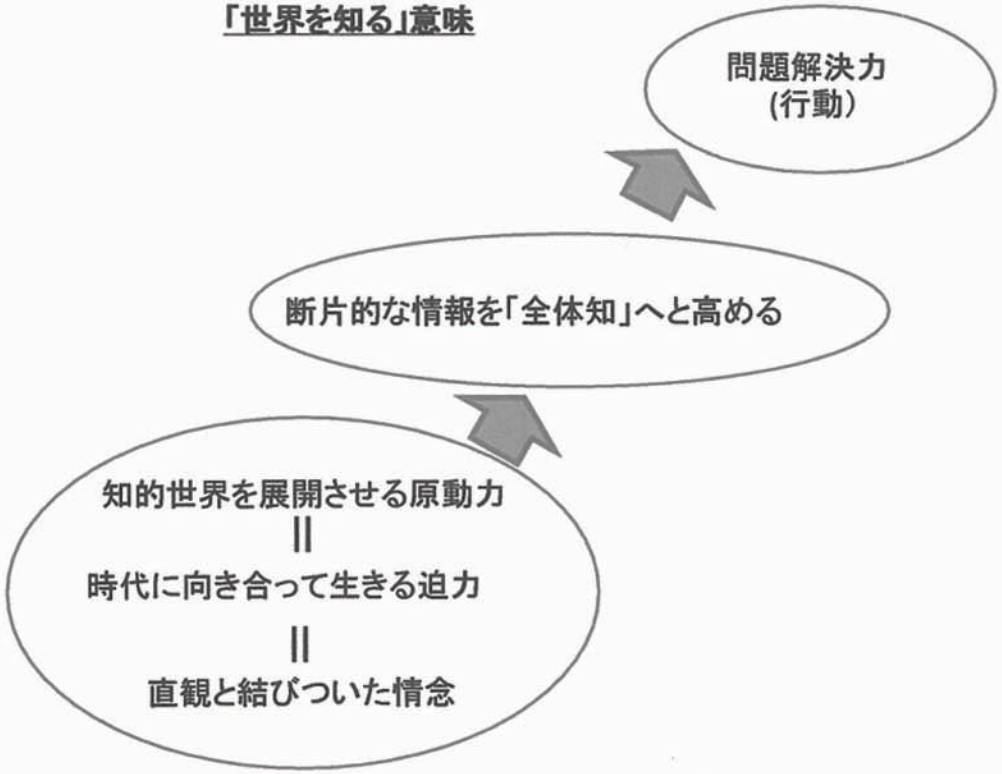
＝

自らを相対化し客観視する

獲得する方法

異文化の中に飛び込む

「世界を知る」意味



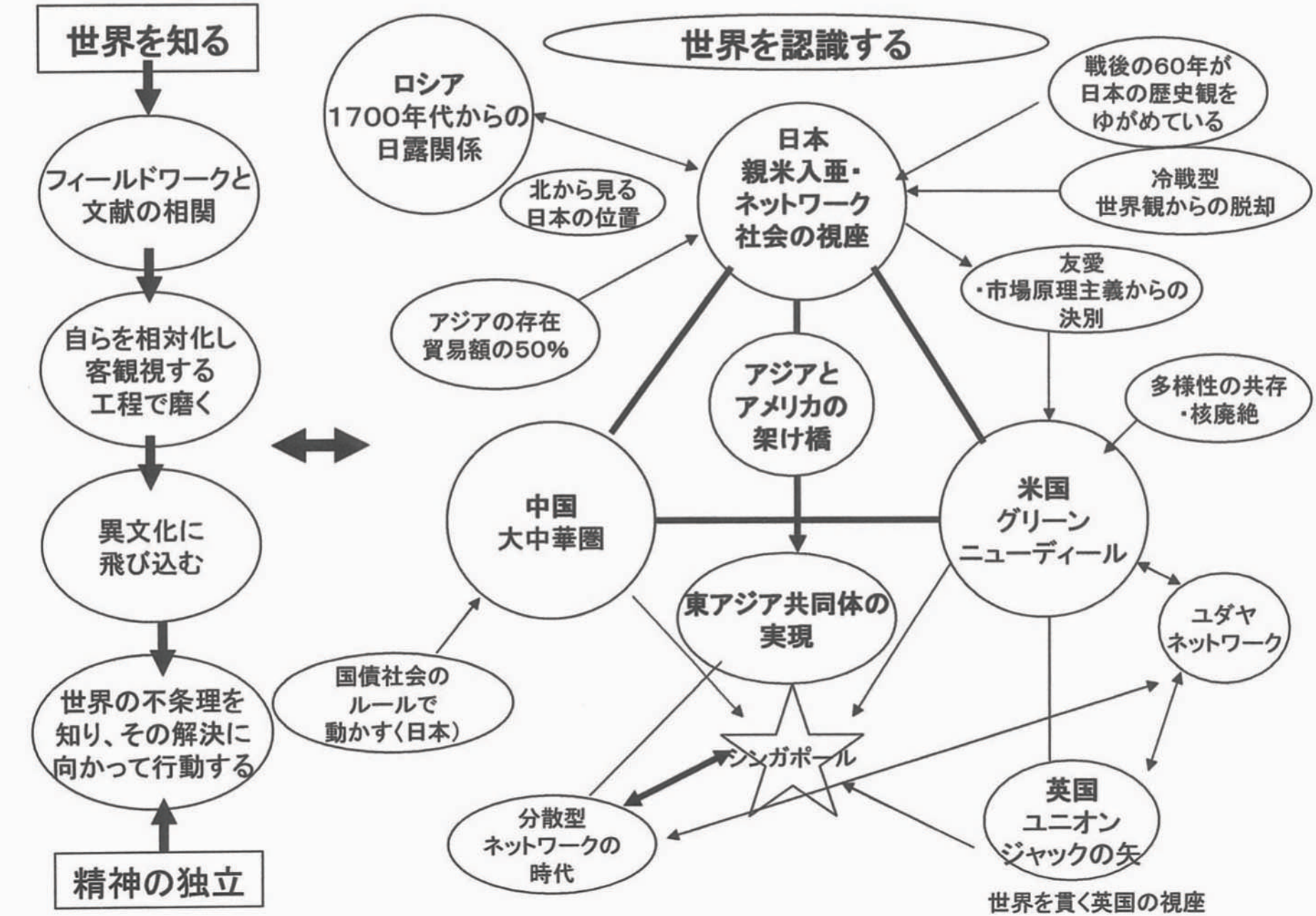
マージナルマン という生き方

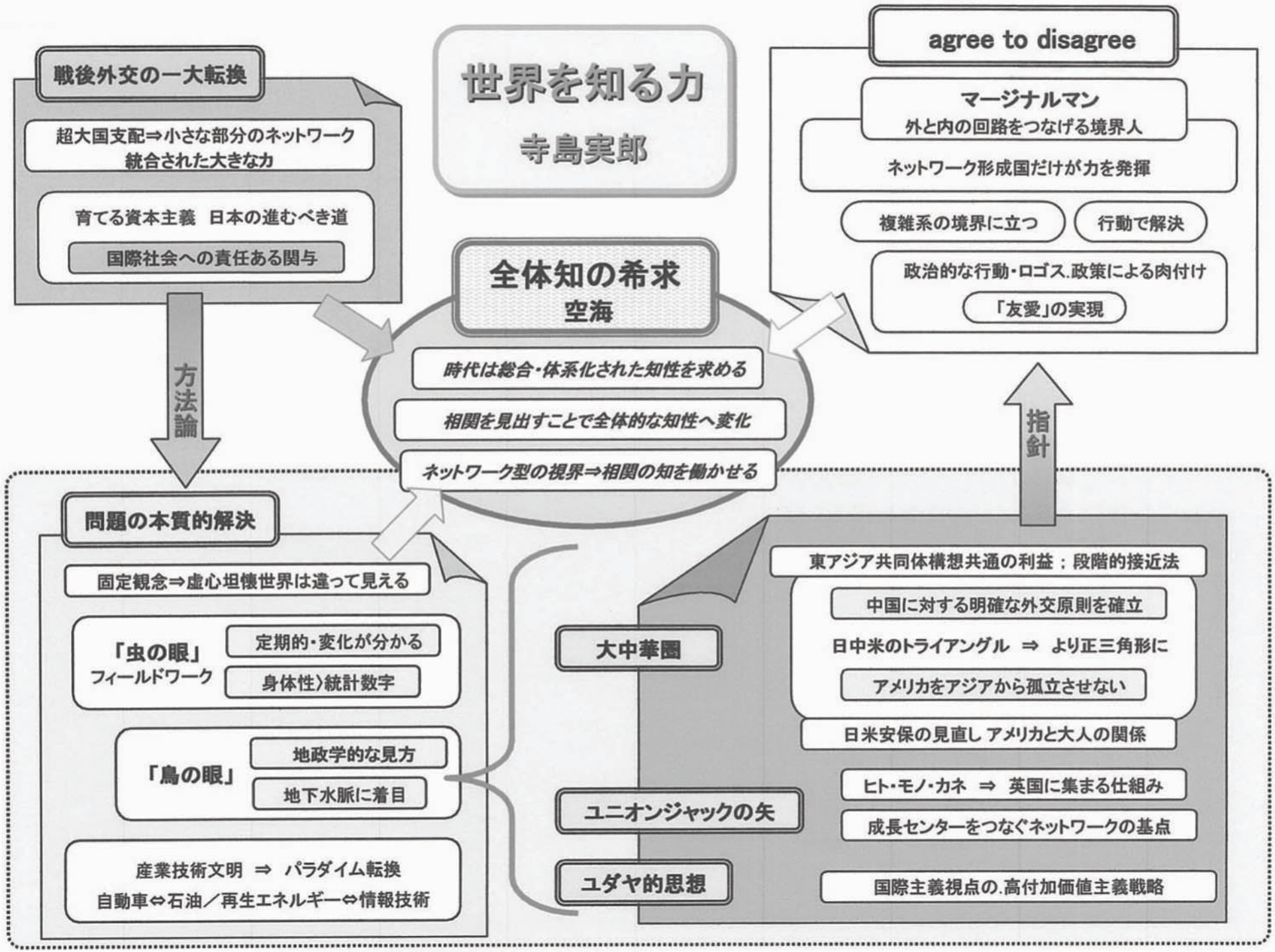
- 自らのテーマをもつ
- 自らのライフスタイルを貫く意志
- 帰属組織に腰を据えて参加する

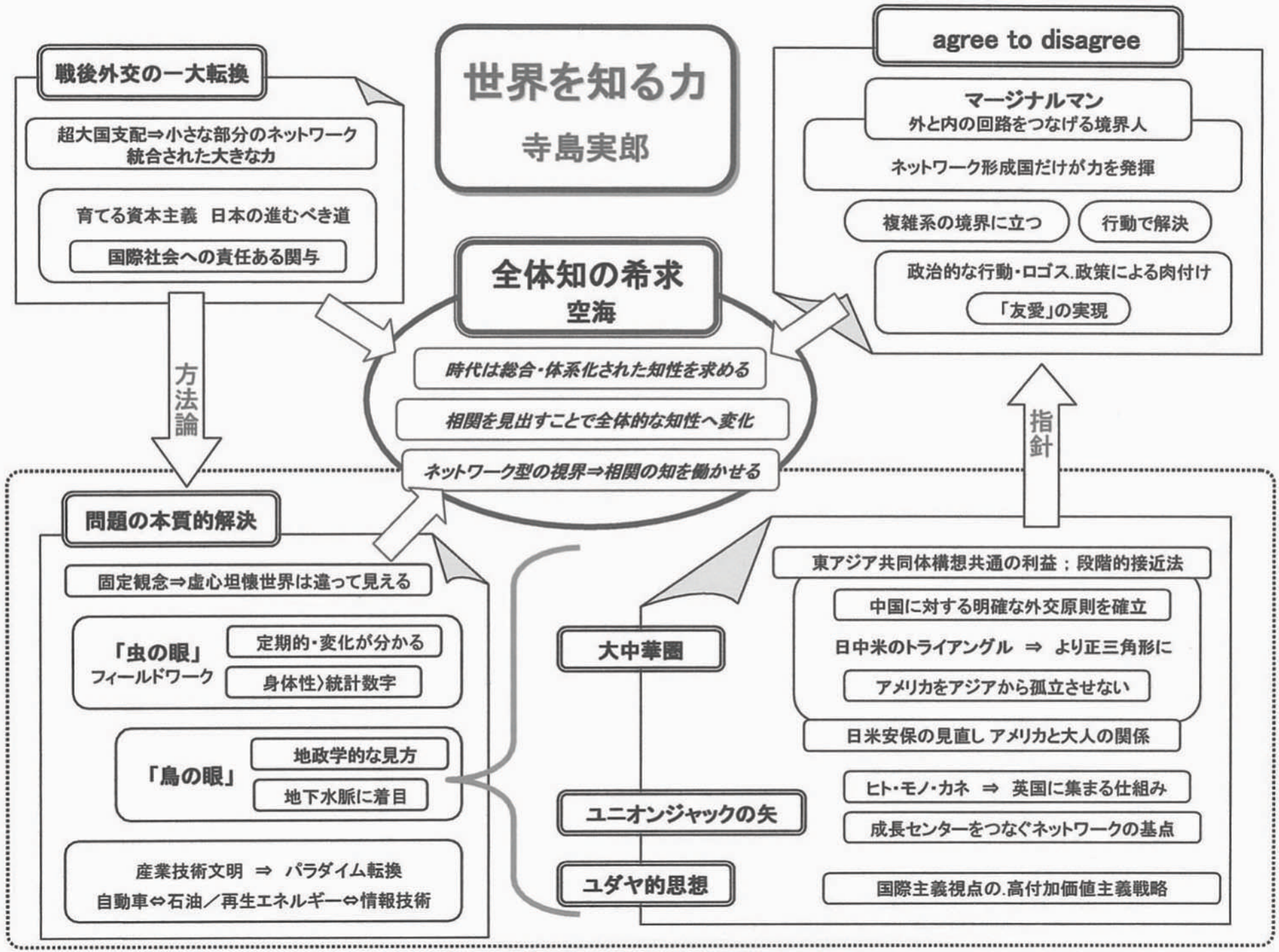
時代の要請

× 断片的な分断された知性
○ 総合的・体系化された知性

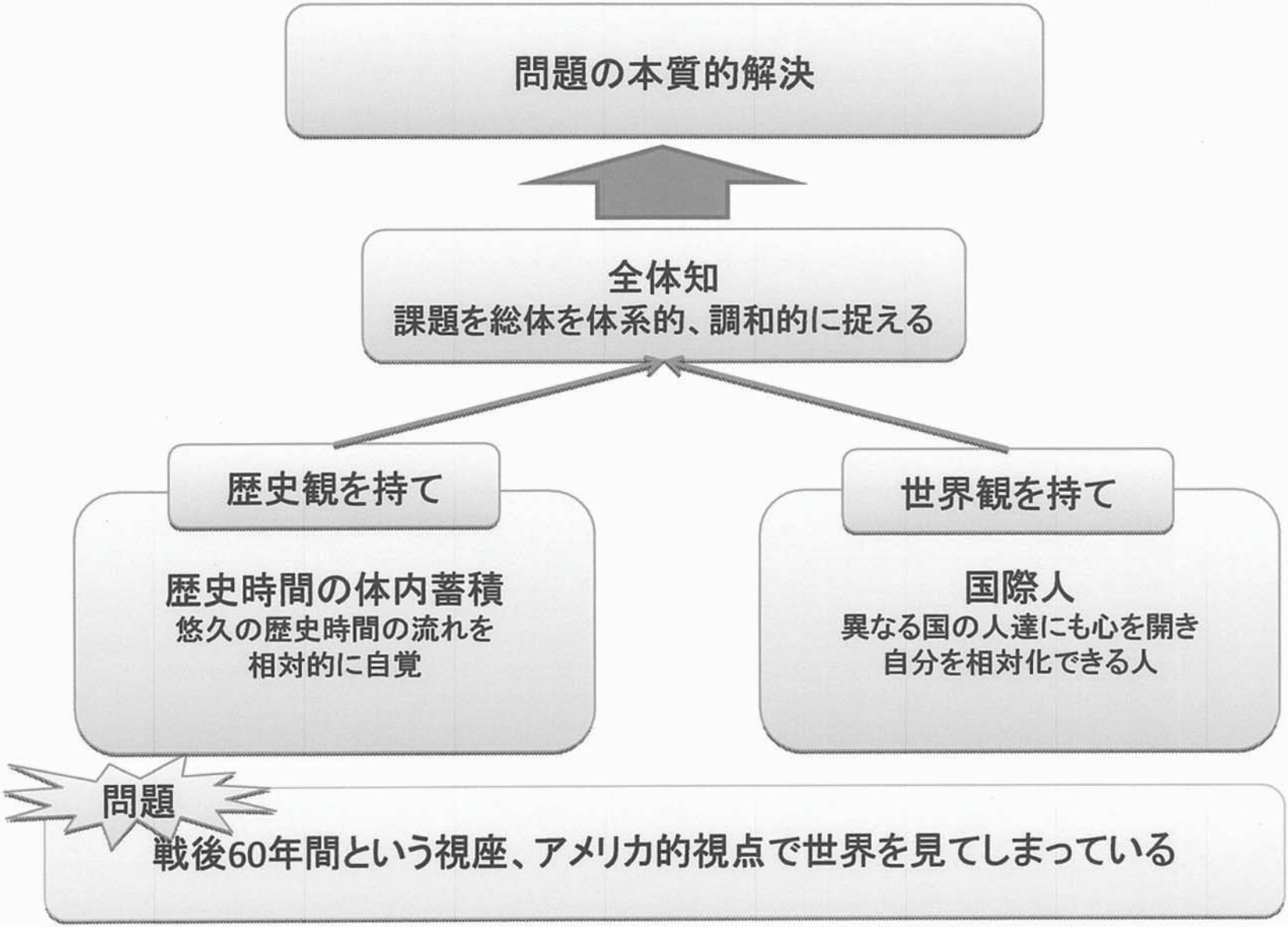
「世界を知る力（寺島実郎著）



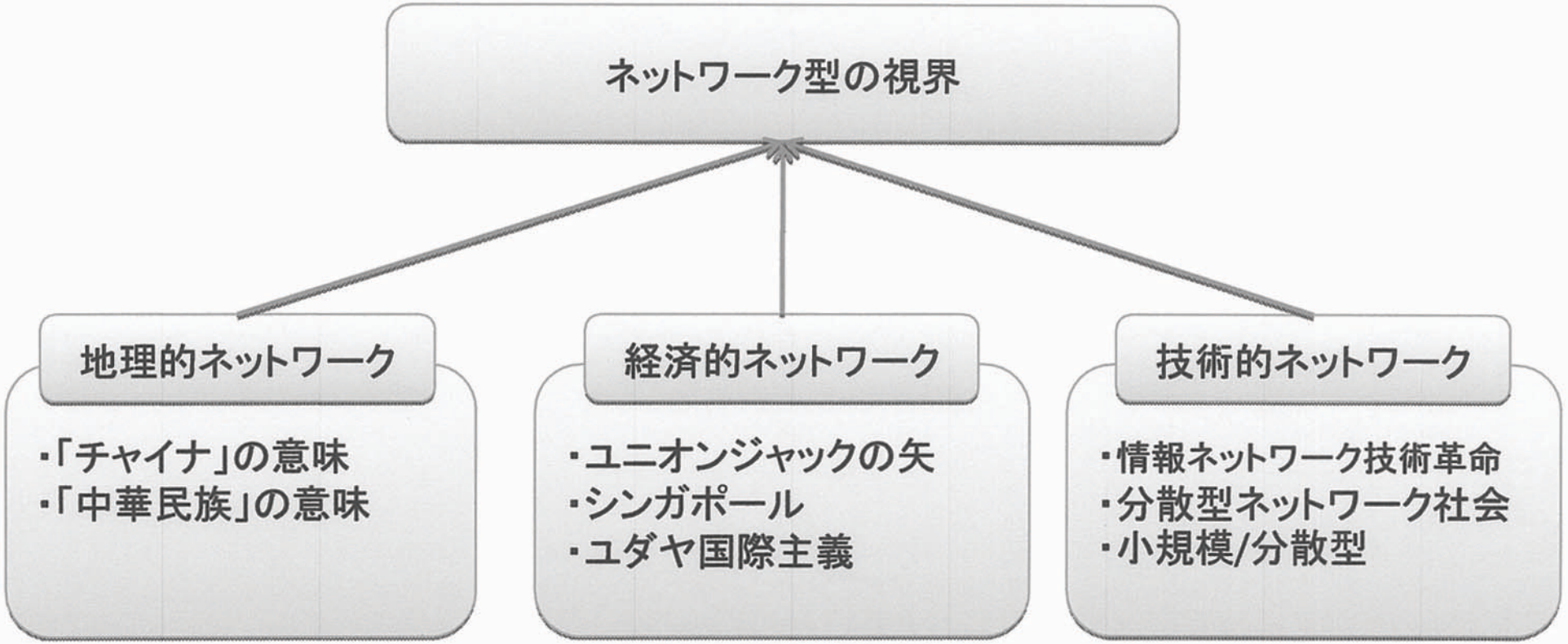

世界を知る力
寺島実郎
戦後外交の一大転換
超大国支配⇒小さな部分のネットワーク
統合された大きなカ
育てる資本主義　日本の進むべき道
国際社会への責任ある関与
方法論
全体知の希求
空海
時代は総合・体系化された知性を求める
相関を見出すことで全体的な知性へ変化
ネットワーク型の視界⇒相関の知を働かせる
agree to disagree
マージナルマン
外と内の回路をつなげる境界人
ネットワーク形成国だけが力を発揮
複雑系の境界に立つ
行動で解決
政治的な行動・ロゴス.政策による肉付け
「友愛」の実現
指針
問題の本質的解決
固定観念⇒虚心坦懐世界は違って見える
「虫の眼」
フィールドワーク
定期的・変化が分かる
身体性〉統計数字
「鳥の眼」
地政学的な見方
地下水脈に着目
産業技術文明　⇒　パラダイム転換
自動車⇔石油／再生エネルギー⇔情報技術
大中華圏
東アジア共同体構想共通の利益：段階的接近法
中国に対する明確な外交原則を確立
日中米のトライアングル　⇒　より正三角形に
アメリカをアジアから孤立させない
日米安保の見直し アメリカと大人の関係
ユニオンジャックの矢
ヒト・モノ・カネ　⇒　英国に集まる仕組み
成長センターをつなぐネットワークの基点
ユダヤ的思想
国際主義視点の.高付加価値主義戦略


世界を知る力
寺島実郎
戦後外交の一大転換
超大国支配⇒小さな部分のネットワーク
統合された大きなカ
育てる資本主義　日本の進むべき道
国際社会への責任ある関与
agree to disagree
マージナルマン
外と内の回路をつなげる境界人
ネットワーク形成国だけが力を発揮
複雑系の境界に立つ
行動で解決
政治的な行動・ロゴス.政策による肉付け
「友愛」の実現
全体知の希求
空海
時代は総合・体系化された知性を求める
相関を見出すことで全体的な知性へ変化
ネットワーク型の視界⇒相関の知を働かせる
方法論
指針
問題の本質的解決
固定観念⇒虚心坦懐世界は違って見える
「虫の眼」
フィールドワーク
定期的・変化が分かる
身体性〉統計数字
「鳥の眼」
地政学的な見方
地下水脈に着目
産業技術文明　⇒　パラダイム転換
自動車⇔石油／再生エネルギー⇔情報技術
大中華圏
ユニオンジャックの矢
ユダヤ的思想
東アジア共同体構想共通の利益：段階的接近法
中国に対する明確な外交原則を確立
日中米のトライアングル　⇒　より正三角形に
アメリカをアジアから孤立させない
日米安保の見直し アメリカと大人の関係
ヒト・モノ・カネ　⇒　英国に集まる仕組み
成長センターをつなぐネットワークの基点
国際主義視点の.高付加価値主義戦略

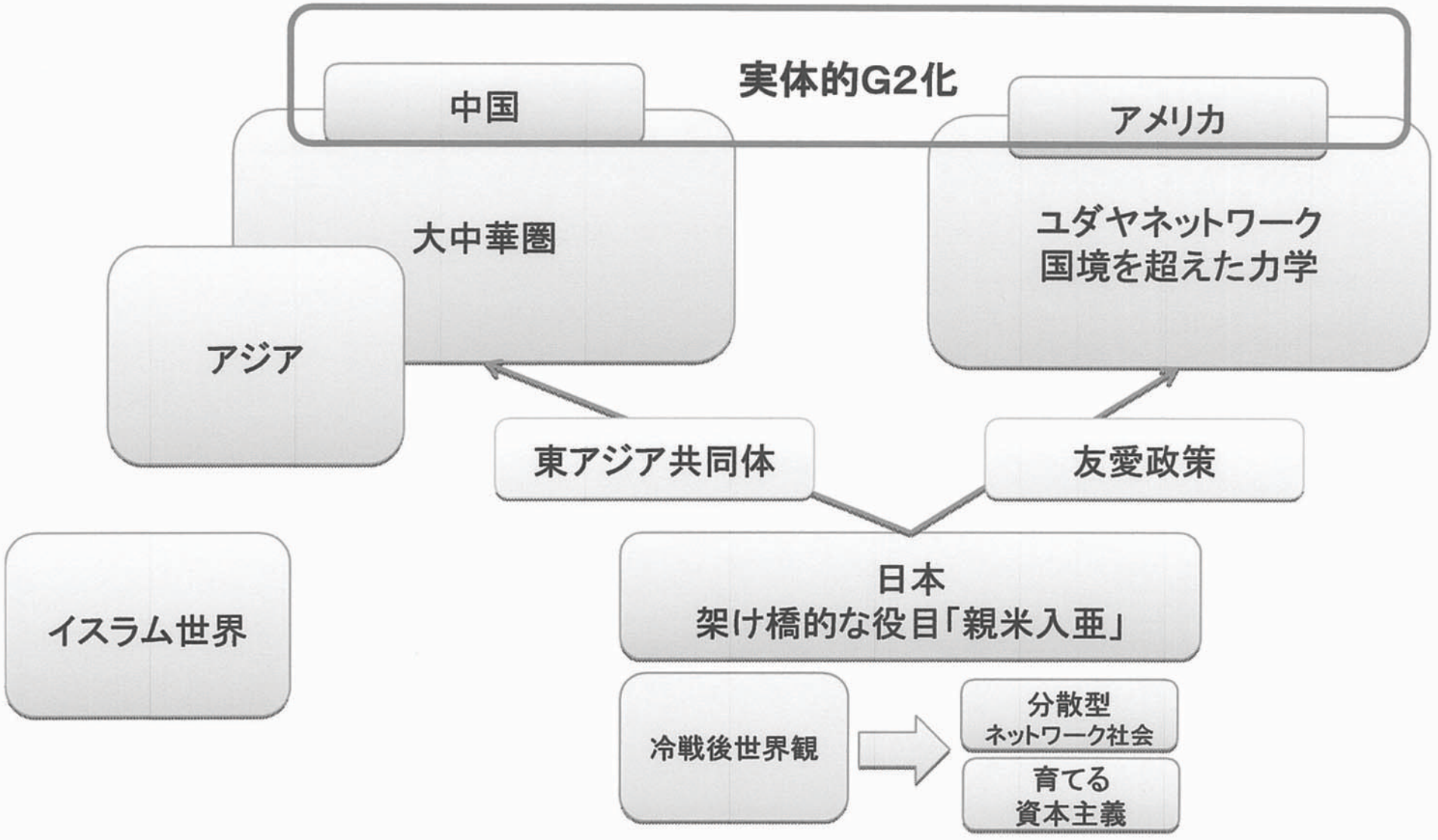
第一章　時空を超える視界



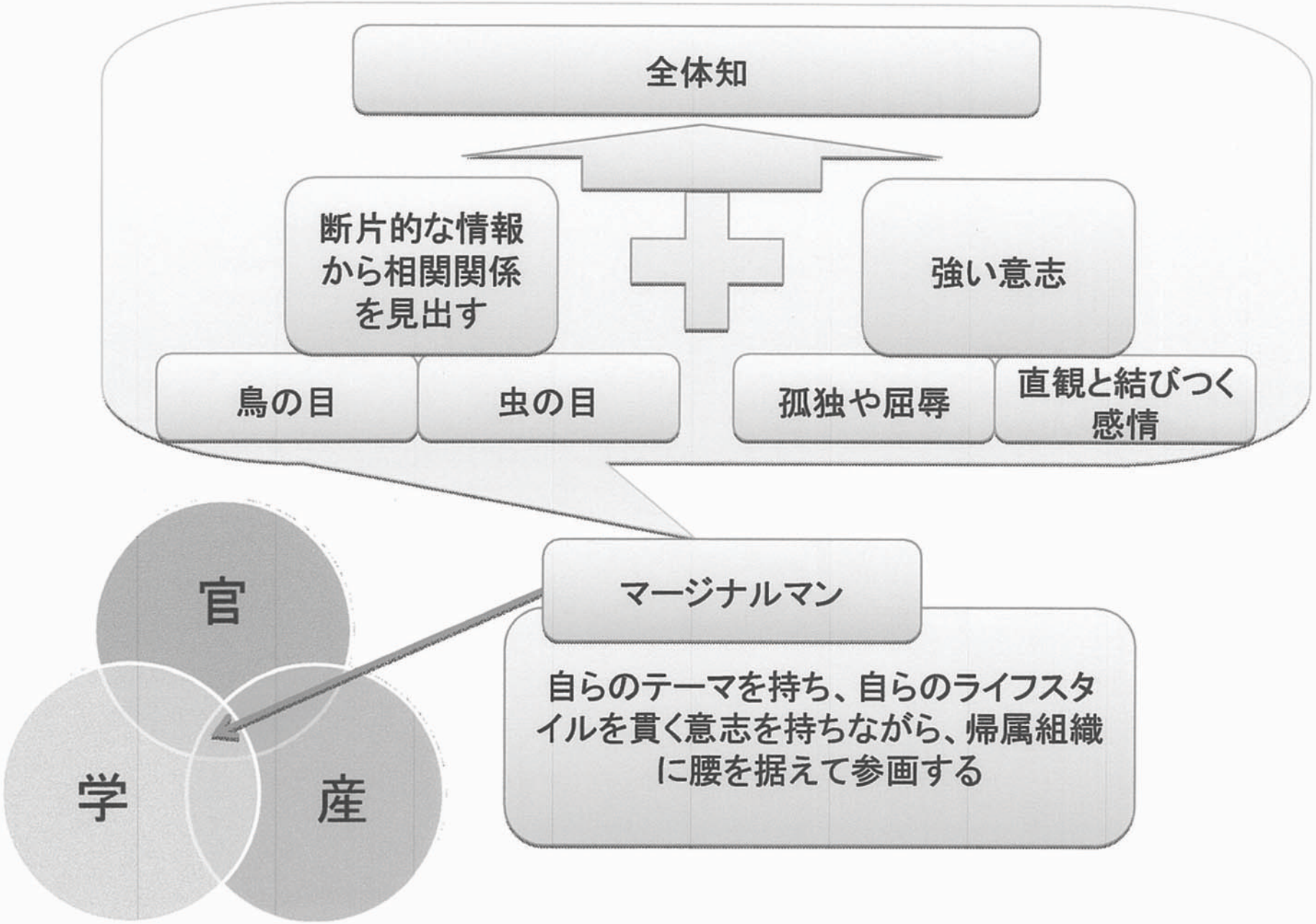
第二章　相関という知

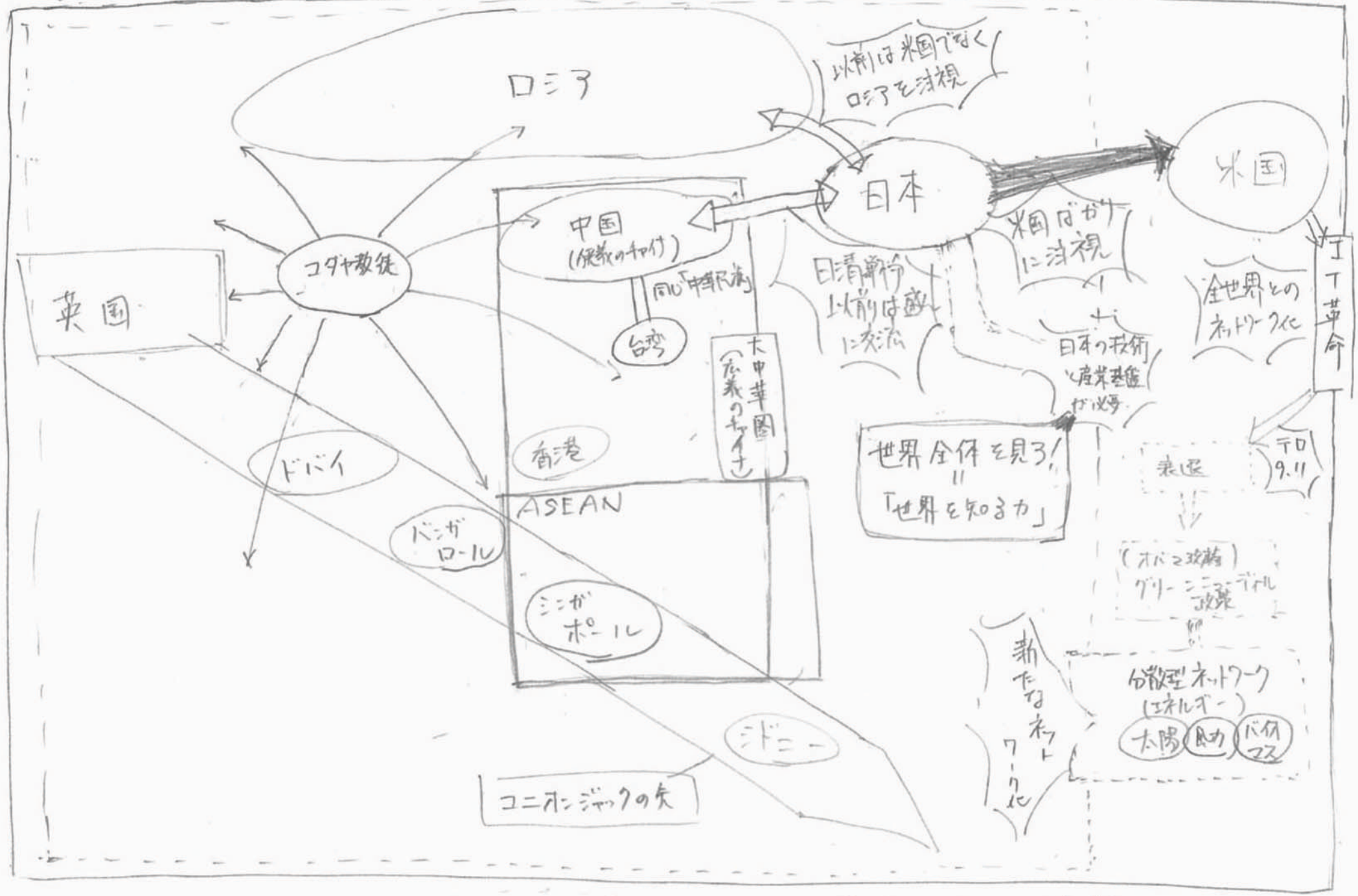

ネットワーク型の視界
地理的ネットワーク
・「チャイナ」の意味
・「中華民族」の意味
経済的ネットワーク
・ユニオンジャックの矢
・シンガポール
・ユダヤ国際主義
技術的ネットワーク
・情報ネットワーク技術革命
・分散型ネットワーク社会
・小規模/分散型

第三章
世界潮流を映す日本の戦後

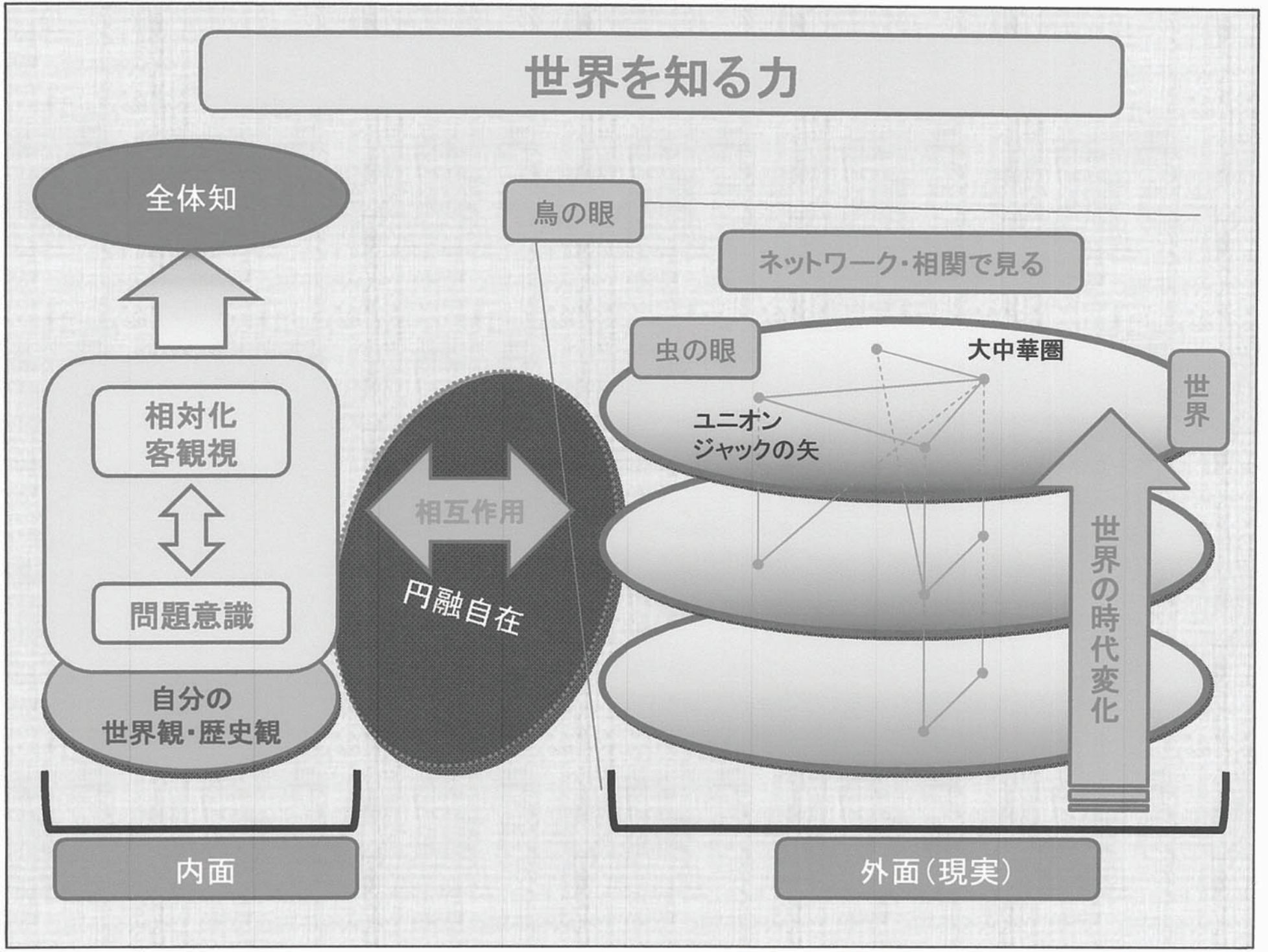


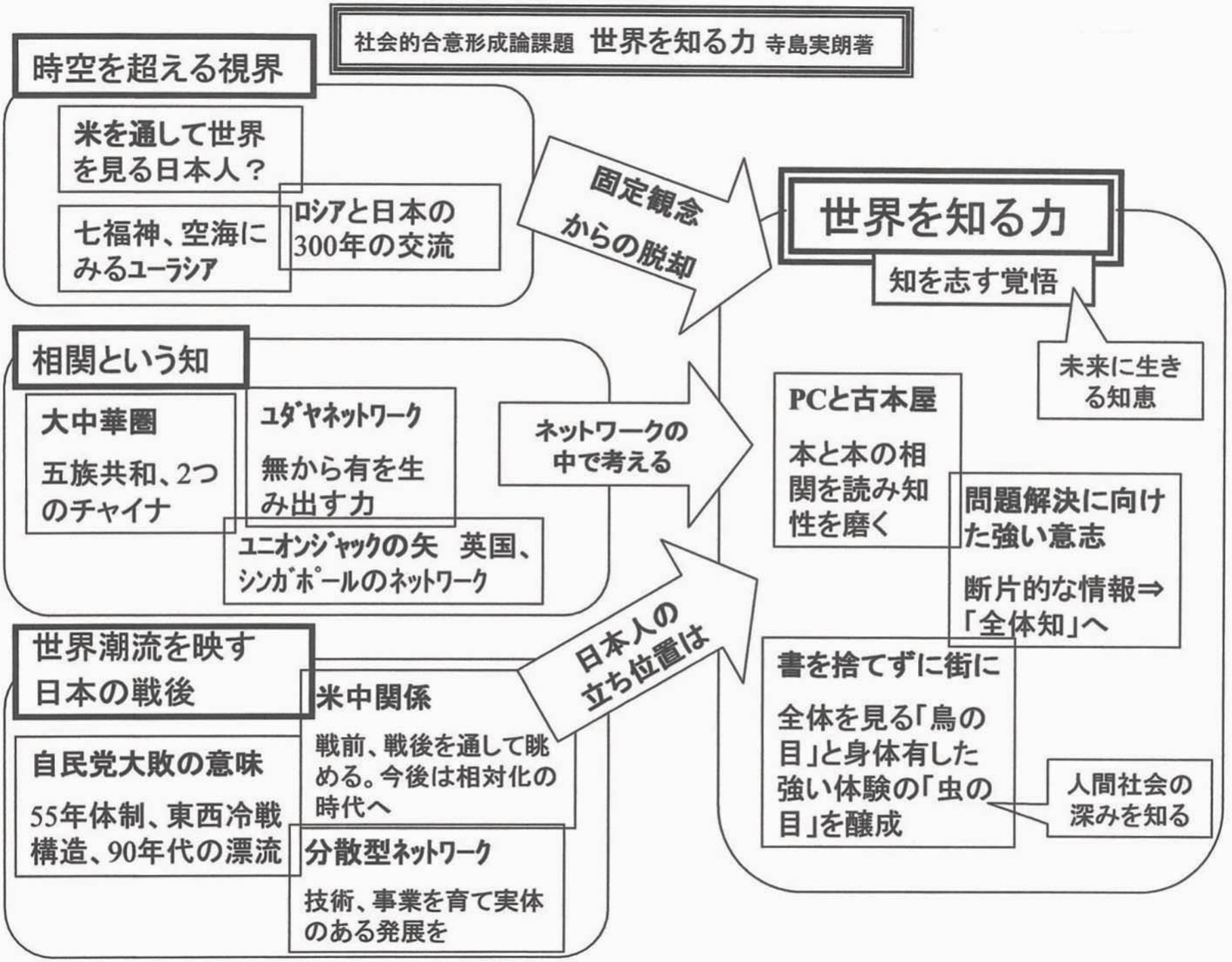
第四章　世界を知る力


全体知
断片的な情報から相関関係を見出す
強い意志
鳥の目
虫の目
孤独や屈辱
直観と結びつく感情
官
学
産
マージナルマン
自らのテーマを持ち、自らのライフスタイルを貫く意志を持ちながら、帰属組織に腰を据えて参画する

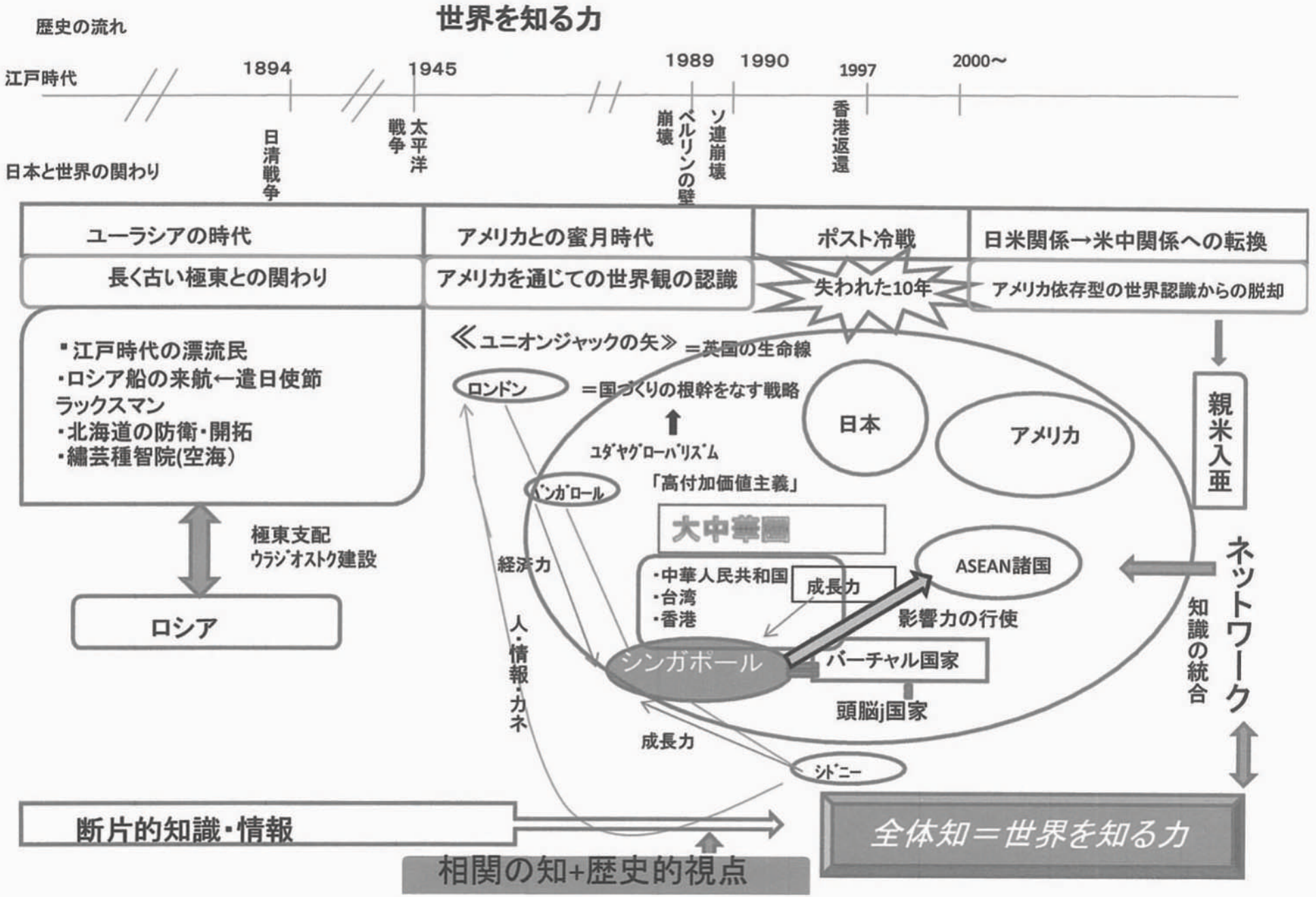


「世界を知るか」(寺島実郎著)


世界を知る力
全体知
相対化
客観視
問題意識
自分の
世界観・歴史観
内面
相互作用
円融自在
鳥の眼
ネットワーク・相関で見る
虫の眼
大中華圏
ユニオン
ジャックの矢
世界
世界の時代変化
外面（現実）


社会的合意形成論課題 世界を知る力 寺島実朗著
時空を超える視界
米を通して世界を見る日本人？
七福神、空海にみるユーラシア
ロシアと日本の300年の交流
相関という知
大中華圏
五族共和、2つのチャイナ
ユダヤネットワーク
無から有を生み出す力
ユニオンジャックの矢 英国、シンガポールのネットワーク
世界潮流を映す日本の戦後
自民党大敗の意味
55年体制、東西冷戦構造、90年代の漂流
米中関係
戦前、戦後を通して眺める。今後は相対化の時代へ
分散型ネットワーク
技術、事業を育て実体のある発展を
固定観念からの脱却
ネットワークの中で考える
日本人の立ち位置は
世界を知る力
知を志す覚悟
未来に生きる知恵
PCと古本屋
本と本の相関を読み知性を磨く
問題解決に向けた強い意志
断片的な情報⇒「全体知」へ
書を捨てずに街に
全体を見る「鳥の目」と身体有した強い体験の「虫の目」を醸成
人間社会の深みを知る

世界を知る力


歴史の流れ
江戸時代
1894
1945
1989
1990
1997
2000～
日清戦争
太平洋戦争
ベルリンの壁崩壊
ソ連崩壊
香港返還
日本と世界の関わり
ユーラシアの時代
アメリカとの蜜月時代
ポスト冷戦
日米関係→米中関係への転換
長く古い極東との関わり
アメリカを通じての世界観の認識
失われた10年
アメリカ依存型の世界認識からの脱却
・江戸時代の漂流民
・ロシア船の来航←遣日使節ラックスマン
・北海道の防衛・開拓
・繡芸種智院(空海)
≪ユニオンジャックの矢≫ ＝英国の生命線
ロンドン
＝国づくりの根幹をなす戦略
ﾕﾀﾞﾔｸﾞﾛｰﾊﾞﾘｽﾞﾑ
「高付加価値主義」
ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰﾙ
日本
アメリカ
親米入亜
大中華圏
経済力
・中華人民共和国
・台湾
・香港
成長力
ASEAN諸国
ネットワーク
知識の統合
影響力の行使
人・情報・カネ
シンガポール
バーチャル国家
頭脳j国家
成長力
ｼﾄﾞﾆｰ
極東支配
ウラジオストク建設
ロシア
断片的知識・情報
相関の知+歴史的視点
全体知＝世界を知る力

「世界を知る力」寺島学長著　秋学期課題

現在



将来

日本及び日本人

国内産業
（育てる資本主義）

技術力育成

事業の育成

対中政策

毅然とした外交

世界の責任ある関与者の行動を促す

知識人（マージナルマン）

学びの時間の確保

研究活動への参画

フィールドワークで現場や事実の探求

自らのテーマと強い意志を持ち
帰属組織に腰を据えて活動へ参画